教育学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 21-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 21-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該研究科の教育研究が広範な諸分野に対応した分析･研究能力の形成を目的としていること、新たな教育の専門家養成を期してコース･専攻を新設したこと、さらに学内外から客員教授等の教員を委嘱していること等専門教育の充実を期した組織編制を行っている。質の高い研究・教育のために、附属学校教育高度化センター、基礎学力研究開発センター等関連施設を設置しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、自己評価委員会を組織して「教育学研究科・教育学部年報」を発行しているのをはじめ、中期目標に設定された体制から進んで、「学校教育高度化専攻」を新設しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教育課程編成が総合教育科学専攻や臨床心理学コース等によって特色を発揮していること、学校教育高度化専攻では理論と実践の統合を目指して修了単位の３分の１を実践研究科目としていること、専門性を備えた教育関係者の養成のために、全学の協力体制を得た授業科目（「言語」「科学技術」等）が整備されていること、また、学校カリキュラムの高度化を推進する専門科目を多数開設しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、社会の要請に応えるために、臨床心理学及び大学経営・政策の各コースと学校教育高度化専攻を設置して教育体制･教育内容の充実を図っていること、他大学との間に特別聴講制度を設けていること、科目等履修制度を

導入していることが上げられる。また、国際化を積極的に推進しており、留学生受入れ数の推移（60 名、61 名、71 名）が着実に上昇しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、研究科の授業科目が基本研究、特殊研究、論文指導から成り立っており、臨床心理コースや比較教育社会学コースにみられるように、実際的な研究遂行能力の育成を目指した演習形式を多く採用していること、そのことが具体的に事例に示されていること、こうした背景において論文指導が行われていること、授業概要を学生全員に配布した上で教員各自が授業でより詳細なシラバスを配布しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、入･進学後のガイダンス、ミーティング等を通じてオリジナリティの高い修士論文･博士論文を作成するための助言がなされていること、単位取得上の義務が緩和されていること（大学院修士課程 20 単位以上取得の場合、大学院博士課程の単位に換算できること等）によって学生自身が主体的に多様な分野の研究に触れる機会を保証していること、学生の研究活動に十分な時間を費やすことを可能にしていること、さらにフィールドワークや実験･実習を重視しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準を下回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、大学院修士･大学院博士課程の学位取得者は増加傾向にあるが、博士課程の割合が目標値（30～50%）に照らし平成 19 年度修

了者は平成 17 年度入学者 42 名の割合からすると 26%となる。学生は学会発表や受賞等があるとしても、改善は必ずしも十分ではないことから、期待される水準を下回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、アンケートは実施されていないため客観的なデータによる実証ではないが、大学院生のレポート等によれば学生の授業への満足度は高いとみなされているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準を下回る」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、学生増が原因して大学院修士課程から大学院博士課程へ進学する割合は漸減していること、就職率は漸増し多様化していること、大学院博士課程修了者はほとんど研究者になっていること、日本学術振興会研究員の PD 採用もみられること等を通して高度な専門性を備えた人材を育成するという教育目的がかなり実現されている。修士の進路は、進学者数は一定であり、就職者数は増加している点から、期待の水準にあると判断される。一方、博士修了者の就職者数は平成 16 年度から減少し、日本学術振興会研究員は平成 19 年度は 1 名であるものの期待される水準にあると判断した。平成 17 年度博士の入学者が 42 名であり、就職者数は平成 19 年度 8 名であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、教育産業や企業調査部門等の評価では修了者の資質・能力は優れていると評価され、カリキュラムで重視している点と合致しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。